

岡山飼い猫アンケート調査に関する報告書

1. 調査の趣旨

【中長期目標】

人と猫のより理想的な共生社会を実現するために「①地域」「②飼い主」「③ペット産業」の3つの対象に新しいしくみを提案しつつ、ともに精査・構築していくことを目指しました。2017年度の「しらべる助成」事業の実施を通じて岡山市内の各町内会の現状とニーズが明らかになり、2018年度から「地域猫活動」の普及と実践支援を展開する環境が整備されました。本事業では次に「飼い主」を対象として、猫を捨てさせないためのサービスの構築やモラルの醸成につなげるための情報を収集することを目指します。

●中長期目標を実現するために調査したい地域課題の現状や将来予測について、現状で明らかになっていること

岡山県・岡山市・倉敷市の統計情報では2016年度に地域に捨てられた猫の収容数は731匹となっています。そのうちの約75%はボランティア団体などに譲渡され、現状では殺処分数がほぼゼロまで減少していますが、収容数自体は減少を見せておらず、引き取り先となる組織や施設が人・金銭的な負担が限界に達していることを事業参加者等から確認しました。

また、ある調査（※1）によるとペットビジネスの市場規模は2010年以降、年率1%程度ずつ成長しており、2015年時点では関連市場を総合すると国内で約1兆4,000億円～1兆5,000億円の規模になるなど、現状が大きく変化する兆候は見られず、さらに「アニマルセラピー」の普及や独居高齢者の増加など、ペットによる癒しを求める人、つまり飼い主となる人がますます増加することが予想されています。

2017年度の「しらべる助成」事業の実施における自由記述欄の分析の結果、飼い主のモラルが問題、飼い猫の糞尿が問題等猫の飼い主についての要望が13.5%あり、さらに調査報告会においても猫の飼い主のマナー等について問題提起がありました。

さらに、行政に収容される捨て猫は、警察での捨て猫判定が厳しいため氷山の一角であり、捨てられた猫のほとんどを地域で対応をせざるを得ない状況にあります。捨て猫を受け入れる方法は、猫を飼えなくなった人にとっては便利な一面、施設の、人的キャパシティがある以上、無限大に引取りつづけることはできず、収容した猫を譲渡する行政の施策だけでは、捨て猫減少に至っておらず、捨てさせない方法を考えなければ根本的な解決には至らないと考えます。

【明らかにしたいこと】

私たちは猫の数を減らすだけでなく、人が猫を捨てない社会をつくるため、飼い主が猫を捨てることとなった（または捨てることを考えた）原因や背景を明らかにして、飼い続けるためのサービスをつくり、提供することを目指しています。飼い主が猫を捨てる要因としては「引越しの負担や引越し先の環境」「アレルギー」「自身が病気などになり面倒が見られなくなる」「猫の習性が我慢できない」「飼養費用が捻出できない」「脱走」などが考えられます。そのため、本調査を通じてそれらの要因を解消するアイデアと飼い主のニーズを調べ、自主事業の確立につなげることを目指しています。また、飼い主自身の情報不足や倫理観が要因となるケースも想定されるため、飼い主になる前に知っておくべき情報とそれを入手する媒体及び場所などを同時に調べ、「捨てさせない」ための様々なアプローチを検討したいと考えています。

2017年度の「しらべる助成」事業の実施を通じて、地域にいる飼い主のいない猫の対策だけでは地域の猫問題は解決せず、飼い猫の対策も合わせて行うことが必要であり、そのためには、地域で、ネコ被害にあっている立場なのか、動物主体の保護の立場なのか、人主体の問題解決の立場なのか、の論点を整理して議論し、消化し、地域全体で成果を共有することで、猫問題が起きない、未然に防げる、起きた時に解決できる地域力を醸成したいと考えます。

2. 調査の概要

- ①・対象 岡山市の猫の飼い主 サンプル数116/703
 - ・期間 平成30年7月2日～平成30年7月31日
 - ・方法 ネットリサーチ実施

- ②・対象 岡山県での開業獣医&ペットショップ→サンプル数：50/414
岡山市：在宅介護支援センター →サンプル数：63/205
 - ・期間 平成30年6月25日～平成30年7月20日
 - ・方法 郵送アンケート実施

3. 調査結果

- ・別紙グラフをご覧ください。

4. 分析

①ネット調査について

サンプル数 全体 703 サンプルのうち、猫を飼っている方 116 サンプル
全体について

→ペットの年齢：10歳～13歳が全体の1/3を占めるので高齢化したペットの飼い主が事業のターゲットになるのではないかと

→飼っているペットの入手方法は知り合いからの譲渡が多い

→ペットを飼う上で不安に感じていることは旅行や外出がしにくいことや病気や仕事などでペッ

トの世話ができないことの対処方法、部屋のにおいが気になるが多かった

→希望しているサービスは、旅行中や外出中に専用の施設で預ってもらうことや自分が飼えなくなったときにペットを受け入れて最後まで大切に飼育してくれるサービスが多かった

→最後まで大切に飼育してくれるサービスについて妥当と考える金額は 30,000 円～60,000 円

→飼えなくなった時の新しい飼い主を探すサービスは SNS での譲渡先探し掲載サービスや飼い主が見つかるまでの一時的な預かり希望が多かった

→高齢化したペットの世話対応サービスでは、自宅での介護助成や旅行や外出中の世話サービス、介護コミュニティでの情報提供・交換サービスへの要望が高かった。

→今後ペットを飼う場合については、行政からの譲受希望 46.9%と最も高く次いで愛護団体からの譲受希望 46.2%、知り合いからの譲受希望 39.5%となっている。ペットショップやブリーダーからの購入希望は 30.4%、21.0%と低く、ホームセンターなどでの購入希望は 9.8%と最も低かった。

→回答年齢層は 30 代～40 代が最も多い

→家族構成については配偶者、子供が多く両親や兄弟と同居している家族は多くても 22.5%であった。

猫を飼っている人について

→現在猫を飼っている人が今後飼ってみたい動物は猫と答えた人が 38.8%おり、全体分析に比較して大きく特徴が現れている。猫を飼う人はリピーターが多いのではないかと推察される。

→飼っている猫の数は 1 匹が 49.1%と最も多く次いで 2 匹が 21.6%となっているが、5 匹以上飼っている人が 12.1%と 3 位に入り、多頭飼いも多いことがわかった。

→飼っている猫の年齢は 1～6 歳が 47.4%と最も多いが、13 歳以上が次いで 20.7%と多い。室内飼いや動物医療の普及で寿命が延びたが、7 歳～12 歳の間で死亡することが多いのではないかと推測される。

→ペットを飼う上で困ること、不安に感じていることは、旅行や外出がしにくいこと、爪とぎやマーキング、高齢化したペットへの対応が多かった

→飼う上で希望するサービスは飼えなくなったときに最後まで大切に飼育してくれたり、や新しい飼い主を紹介したり、新しい飼い主を探すことを支援してくれるサービスの希望が多かった。

→最後まで大切に飼育してくれるサービスについて妥当と考える金額は 60,000 円～85,000 円

→高齢化した猫の世話対応サービスを選んだ人は自宅での介護助成サービスを選んだ人が多かった。

→今後ペットを飼う場合については、民間愛護団体からの譲受希望 64.4%と最も高く次いで行政からの譲受希望 57.6%、知り合いからの譲受希望 44.1%となっている。ペットショップやブリーダーからの購入希望は低く、ホームセンターなどでの購入希望は 0%であった。

→回答年齢層は 40 代～50 代が最も多く 30 代が全体調査に比較して少なかった。

→家族構成については配偶者、子供が多く両親や兄弟と同居している家族は多くても 26.7%であった。

②郵送調査について

サンプル数 ペットショップ&開業獣医：50 サンプル 福祉施設 63 サンプル

●ペットショップ&開業獣医へのアンケートのうち、回答者は開業獣医が 44.0%と最も多い

→利用者は 10 人以上

→猫の飼育について相談を受けたことがある人は 77.6%

→相談の内容は多い順に、ペットの高齢化に伴う対応、爪とぎ・マーキング、仕事や病気で飼い主が世話ができないときの対処法であった。

→猫について既に提供しているサービスは専用の施設で預る、飼い主の自宅への往診、飼えなくなったときに新しい飼い主を探すことを支援するサービスの順に多かった。

→猫の飼い主から要望の多いサービスは、旅行や外出中に専用の施設で預る世話代行サービス、えなくなったときに新しい飼い主を紹介したり、探すことを支援するサービスが多かった。

→飼えなくなった時の新しい飼い主を探すサービスは SNS での譲渡先探し掲載サービスや飼い主を探すためのチラシづくり希望が多かった

→不妊・去勢済みの猫を販売譲渡したほうが良いとおもつかの間にはなるべくした方がよいと思うが 42.6%、よいと思うが 21.3%と両方あわせると 6 割強の人が賛成意見であった。

→不妊・去勢手術費用は販売あるいは譲渡の際に請求できると思うと答えた人が 60.6%だった。

→不妊・去勢手術済みの猫を販売あるいは譲渡することは特に必要ないと答えた人は 61.5%の人が不妊・去勢手術は飼い主が責任を持って行なうことと回答している。

●福祉施設

→猫の飼い主が施設に入居する際にペットのことで困ったり、入居を躊躇されたことがあると答えた人は 60.3%。

→ペットのことで相談を受けたことがある人は 32.5%と少ないが、その内容は

飼えなくなったペットの引取先・対処法とペットを手放す不安が共に 55.0%、施設でペットを飼いたいという希望が 45.0%と多かった。

→ペットを飼っていた人が安心して入居しできるようなサービスは、新しい飼い主探しの支援・紹介サービス、ペットの入居できる施設の紹介サービス、ペット信託などによる入居する際の有料ペット受入れ施設提供サービスであった。

→施設に猫を連れて行って交流するサービスは利用してみたい人は 55.2%であった。

【総括】

→ペットがいると旅行に行きづらいという声を聞く。調査結果でも旅行中の世話を希望する人が多い。旅行会社は高齢の富裕層を新たな顧客ターゲットとして取り込みたいが、ペットがいるため旅行に参加してこないという調査結果もある。旅行会社と提携し、旅行中旅行代金に上乗せして回収し、のペット預かりをしてはどうか。料金については、利用者ではなく旅行会社に支払ってもらう方法が良いと思われる。

→介護施設にしても同じ方法でペットの一時預かりサービスを展開してはどうか。介護施設は新規入居者を強く望んでおり、ペットのことが解決したら入居する人も多い。そのようなサービスがあれば、顧客獲得のため、介護施設が宣伝してくれるので一石二鳥である。

→引取費用の妥当額が低いのは、猫の飼育費用を把握していないせいではないか。家計簿をつけている人は少ない。また、この金額は今すぐ！といわれて用意できる金額かもしれない。後々回収できるようなシステムが必要かもしれない。

→将来的には、猫の一時預かりや譲渡のための猫カフェ、介護施設入居のための引き取り、高齢化した猫の看取り、猫の飼い方やかかる費用の講座開催などができ、旅行会社や介護施設とタイアップし、困難を抱えた若者が働ける場としても機能する施設ができればいいと思う。

5. 対策

猫の一時預かりをモデル事業として立ち上げ、最終的には高齢者向けの引き取りをし、滞留しないために猫を譲渡できる施設があれば、やむなく捨てられる猫の減少につながる。

猫の飼い方や終生飼養について学べる教室や、コミュニティでの情報交換の場があれば、一人で悩んでいる人も解決方法が見つかる可能性が高い。

6. 添付資料

① 調査結果

以上

ネコに関する調査（猫を飼っている方）

2018/8/31 作成

【調査概要】

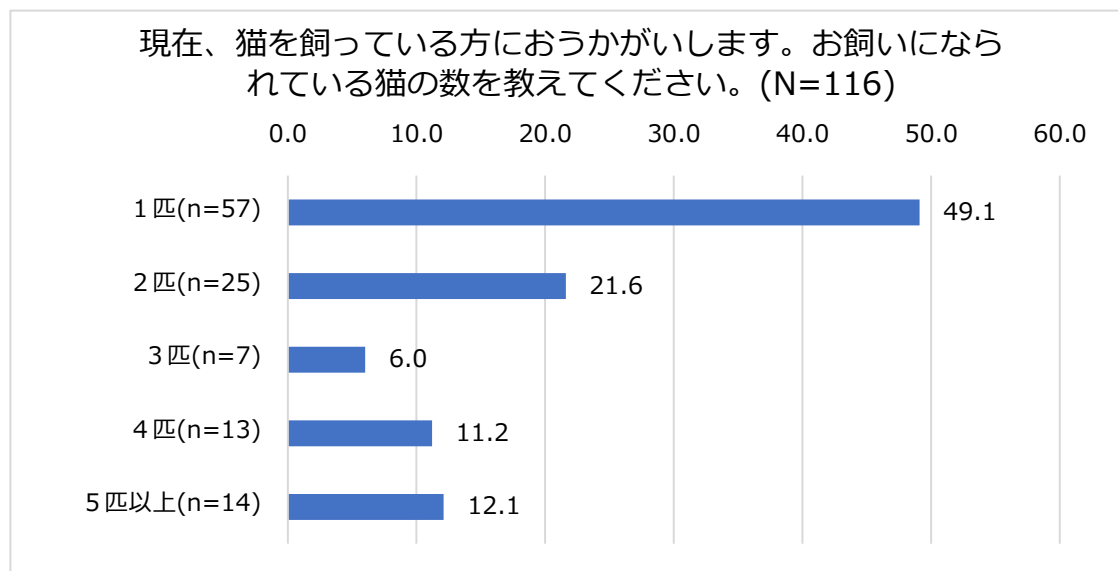
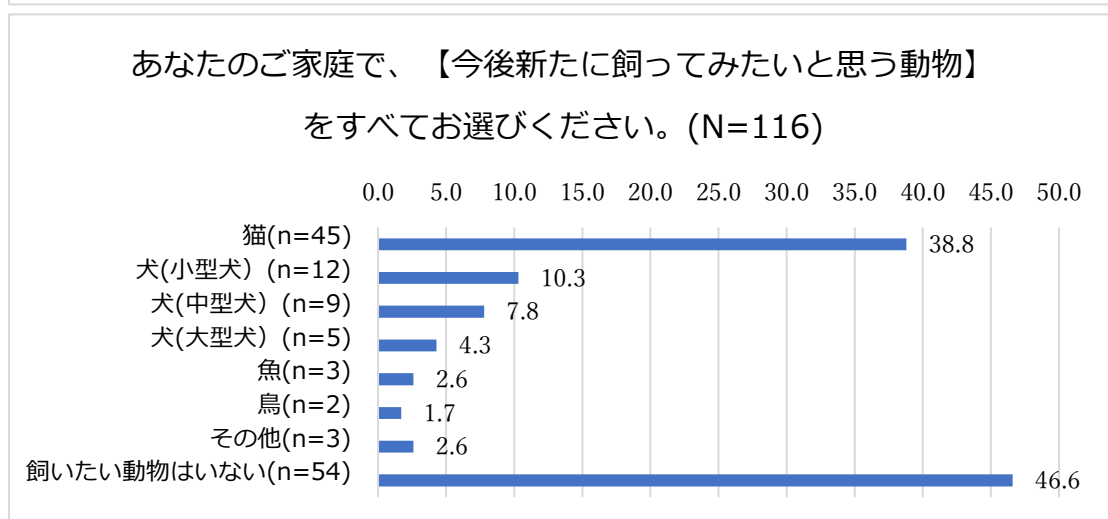
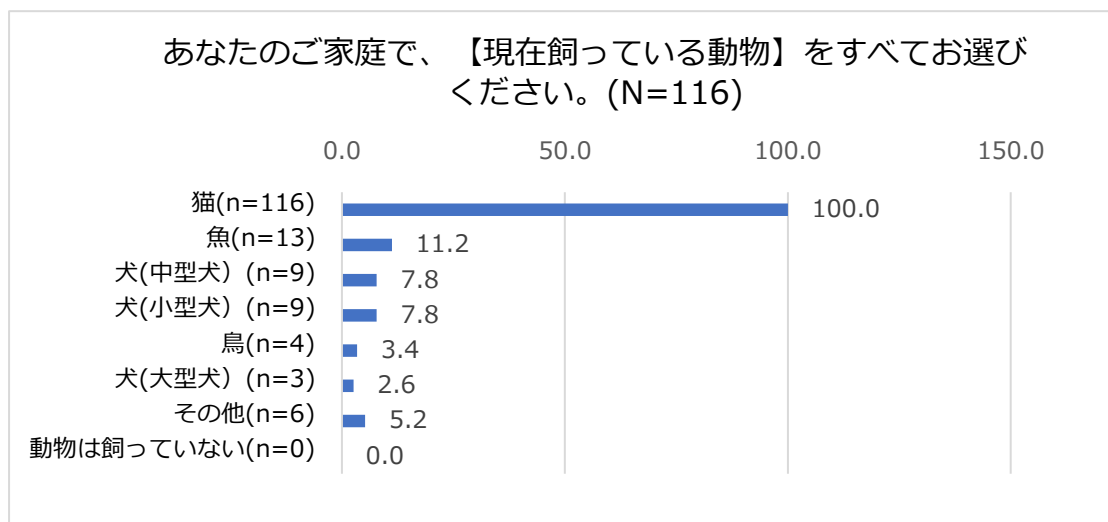
調査期間：2018年7月2日（月）～2018年7月31日（火）

調査方法：インターネット調査（岡山エリアの生活者ネットリサーチ Vinsight パネル）

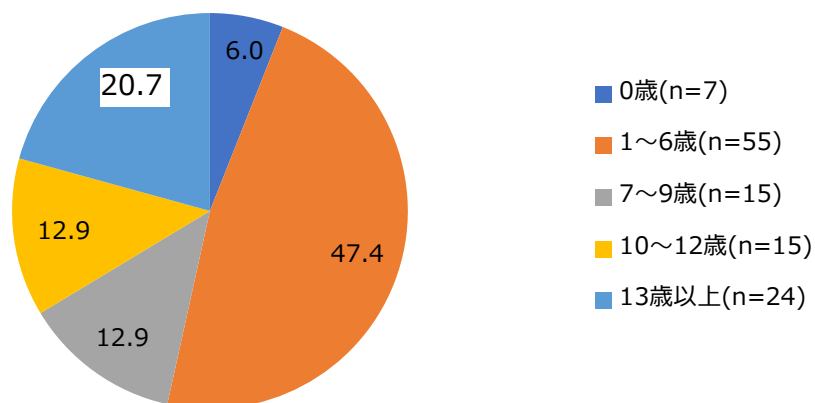
調査対象：岡山県在住一般生活者

有効回答：703 サンプルより猫を飼っている方のみ 116 サンプル抽出

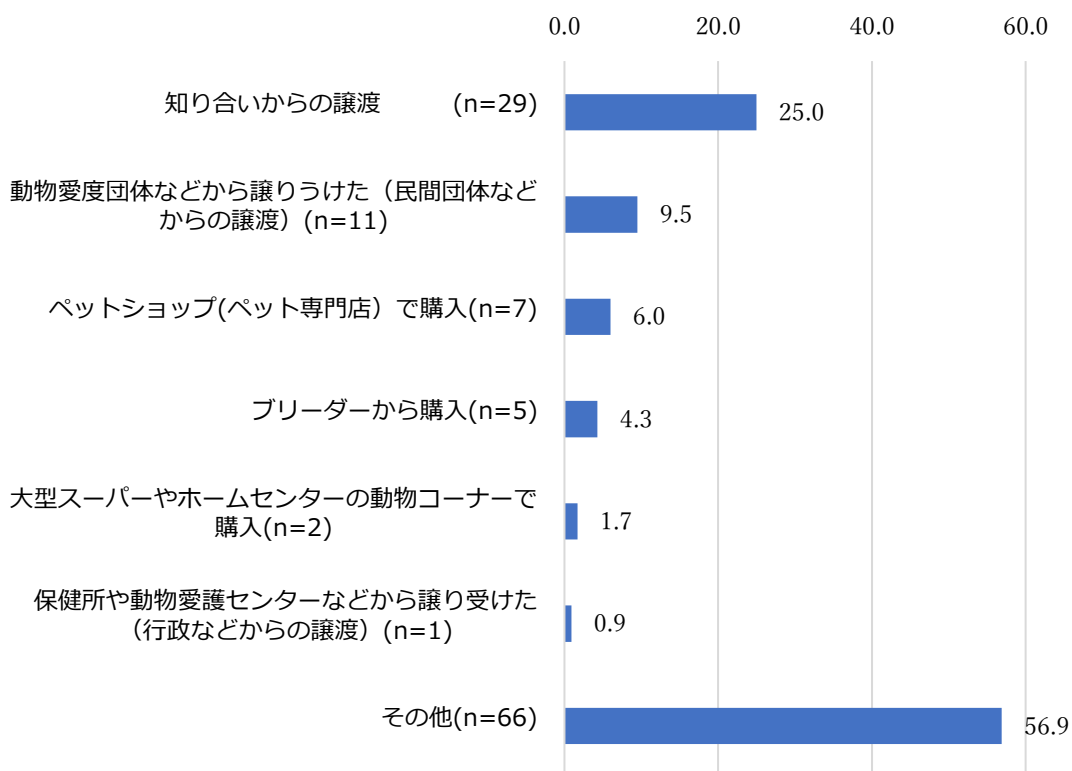
調査機関：岡山情報文化研究所



猫を飼っている方におうかがいします。お飼いにいられている猫の年齢を教えてください。複数いる場合は最長の年齢を教えてください。(N=116)

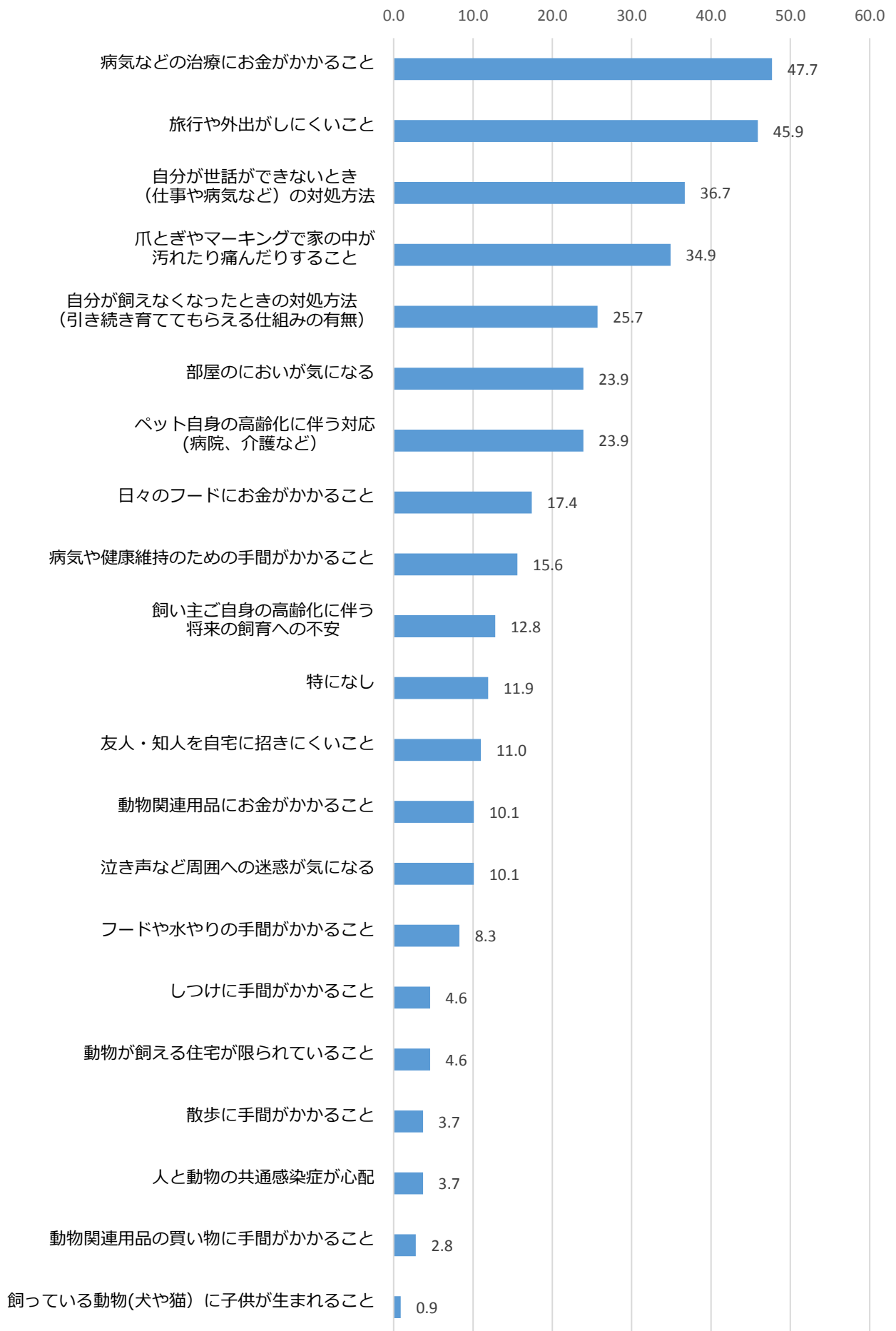


犬や猫を飼っている方におうかがいします。現在飼っている犬や猫はどこで入手されましたか。複数いる場合は、あてはまる入手方法全すべてを教えてください。(N=116)

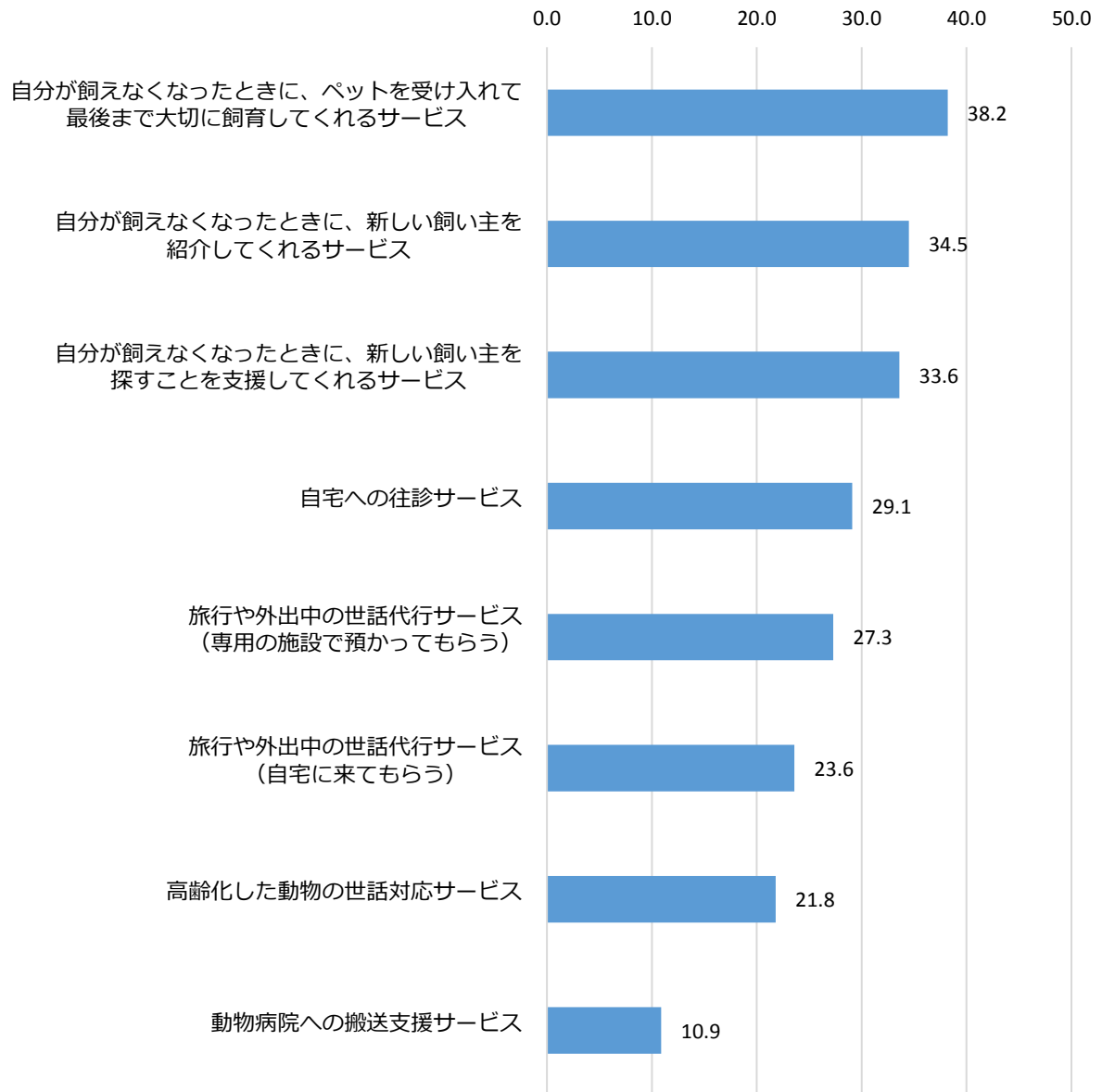


動物を飼う上で困ること、不安に感じていることを教えてください。(いくつでも)

(N=116)

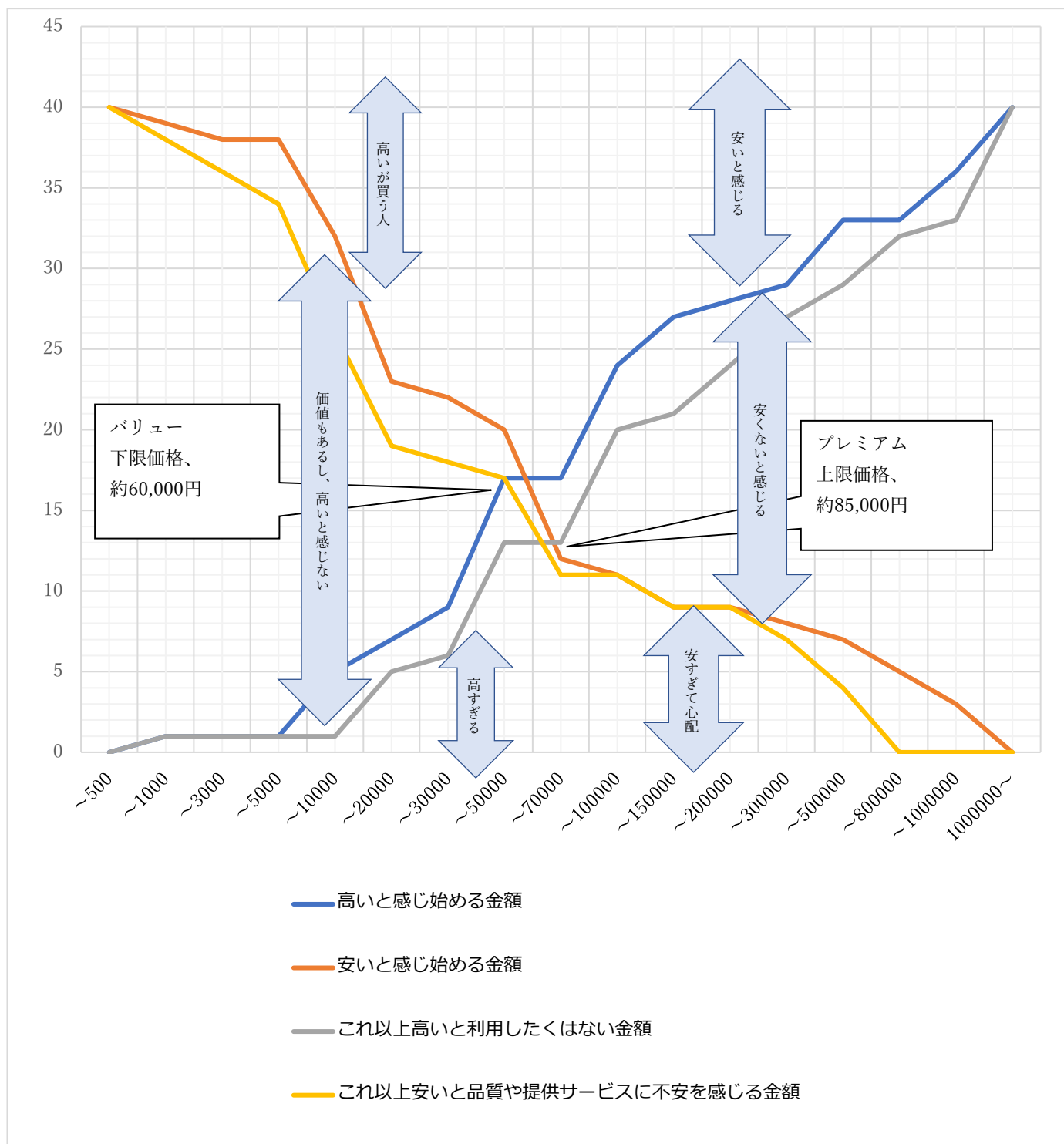


犬や猫を飼う際に、どのようなサービスがあったらいいと思いますか。
(いくつでも) (N=116)

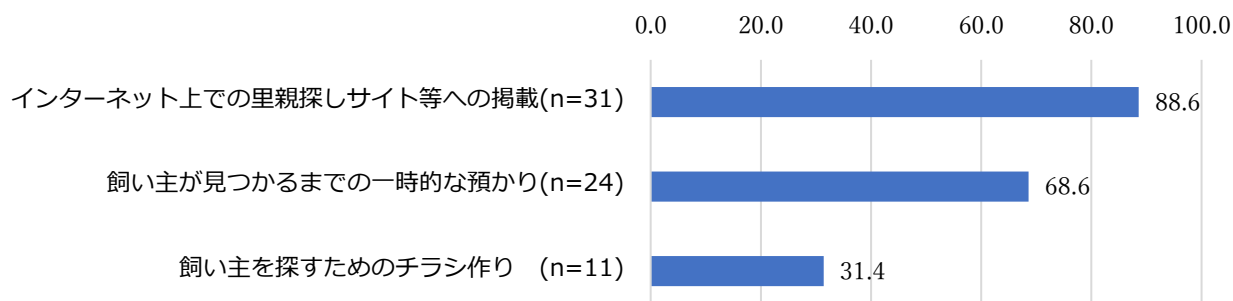


「自分が飼えなくなったときにペットを受け入れて、最後まで大切に飼育してくれるサービス」の利用金額について (PSM 法)

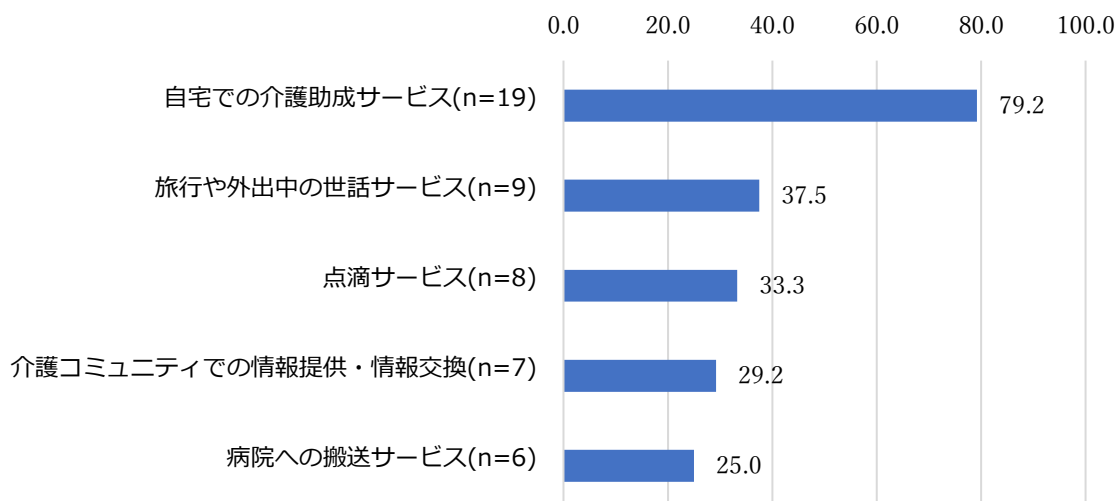
50,000 円~70,000 円が最適な価格帯と想定される (ただし今回の調査では具体的なサービス内容の定義と回答者への理解が十分でないため、参考値としたい)



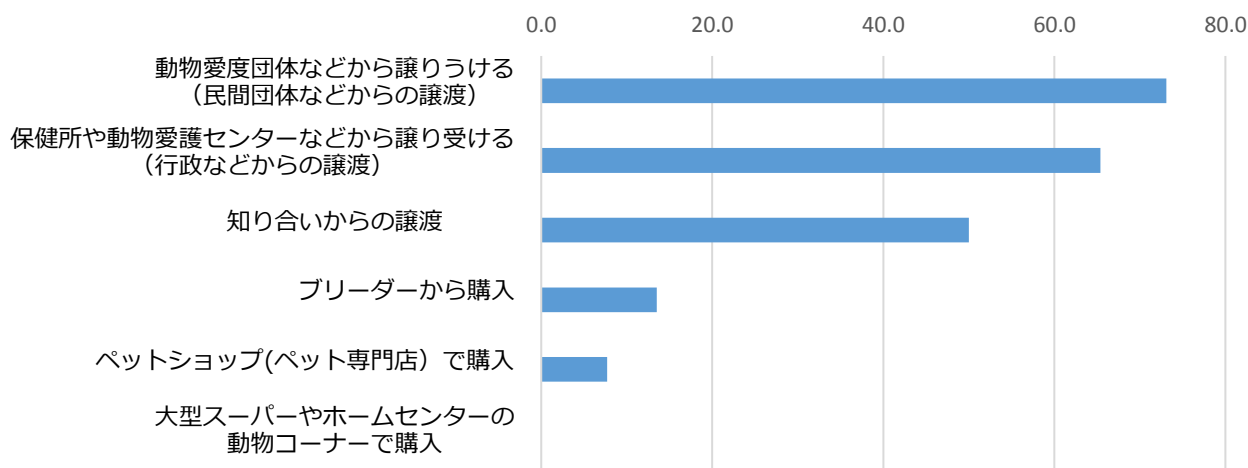
『自分が飼えなくなったときの新しい飼い主を探すことを支援してくれるサービス』を選んだ方におうかがいします。具体的にはどのようなサービスを求めますか。(n=66)



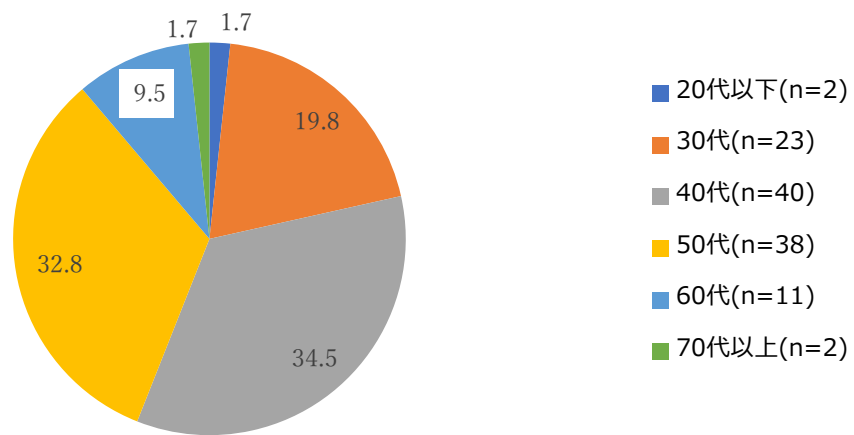
『高齢化した動物の世話対応サービス』を選んだ方におうかがいします。具体的にはどのようなサービスを利用したいですか。(n=24)



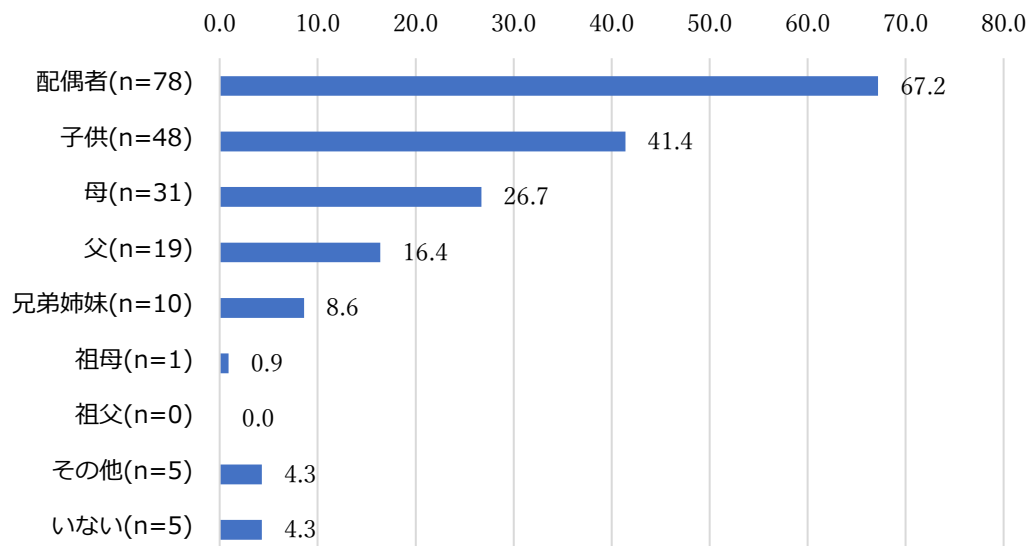
今後「犬や猫を飼いたい」方におうかがいします。どこで入手したいと思いますか？(3つまで) (N=59)



あなたについておうかがいします。年齢を教えてください。
(N=116)

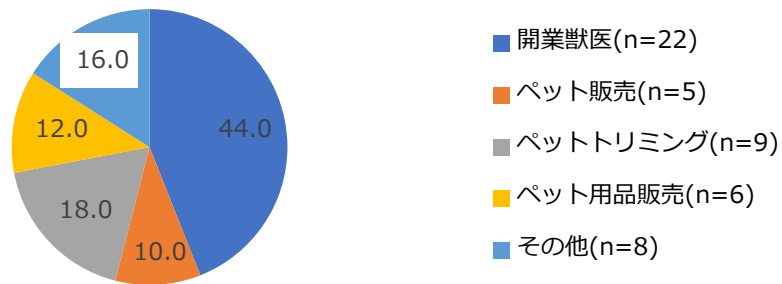


同居されている家族について教えてください。(N=116)

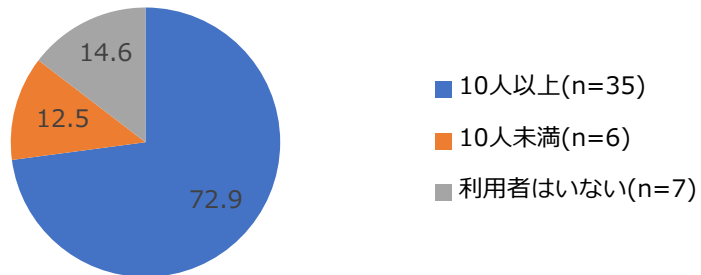


貴社の主な取引は次のうちどれですか。

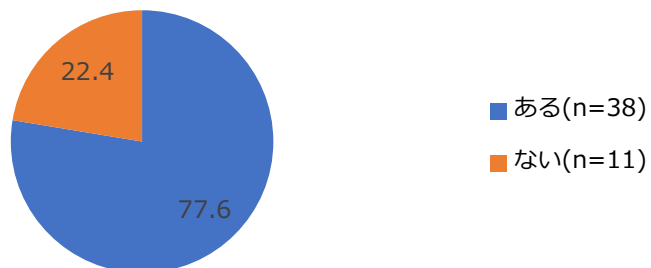
(N=50)



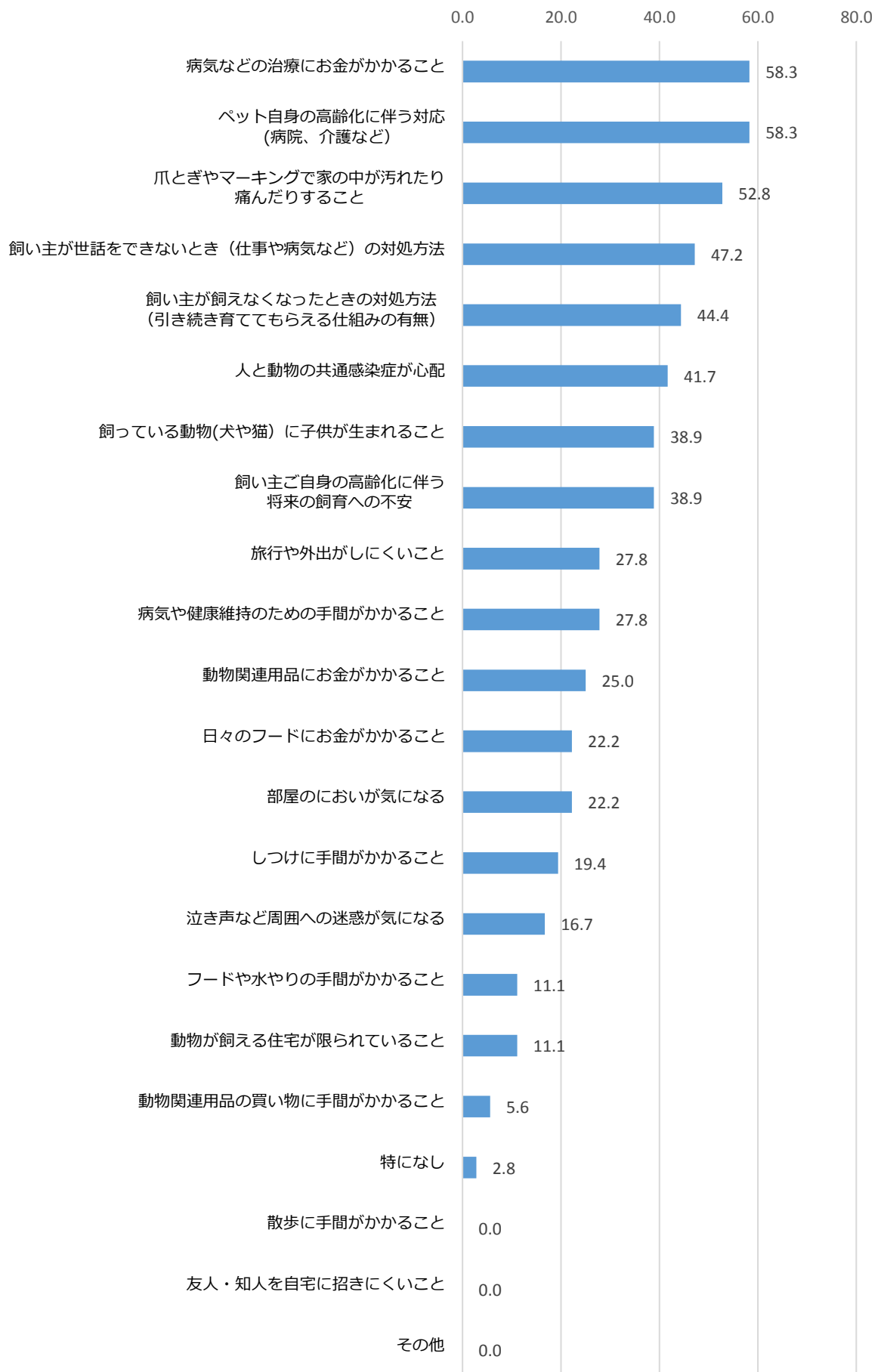
貴社を利用する猫の飼い主はどれくらいいますか。
教えてください。(N=48)



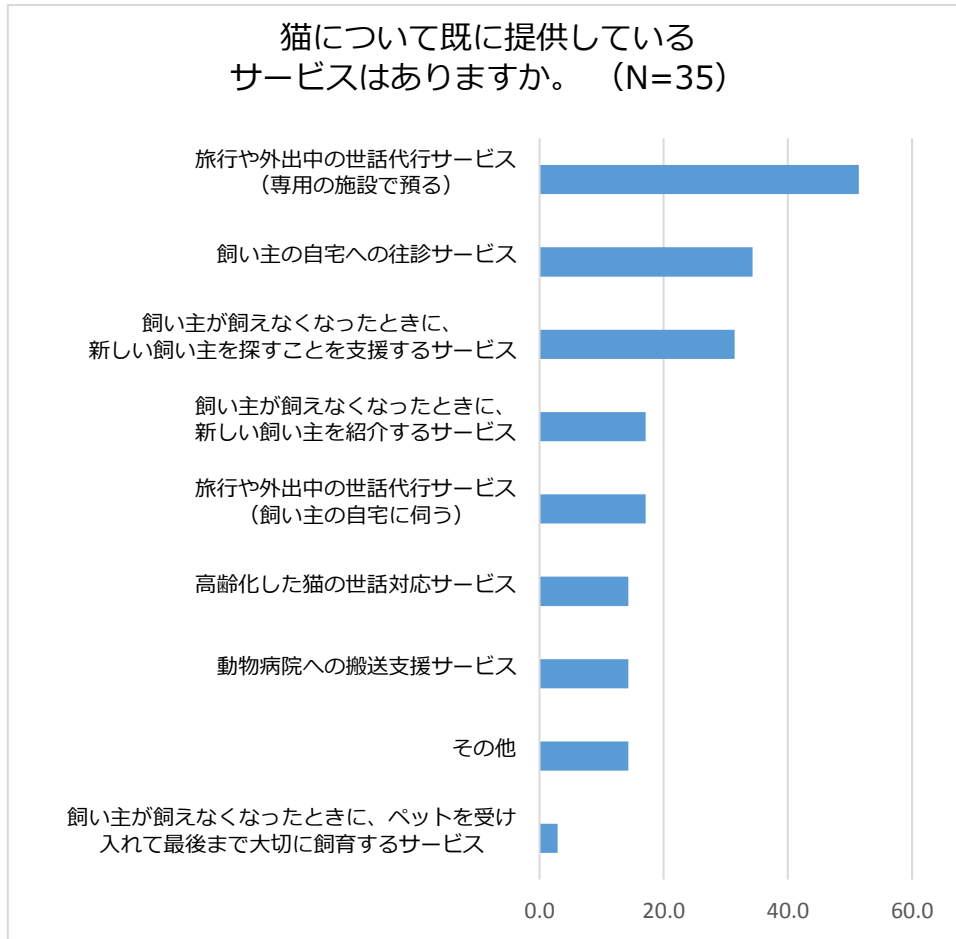
猫の飼育について相談を受けたことがありますか。
(N=49)



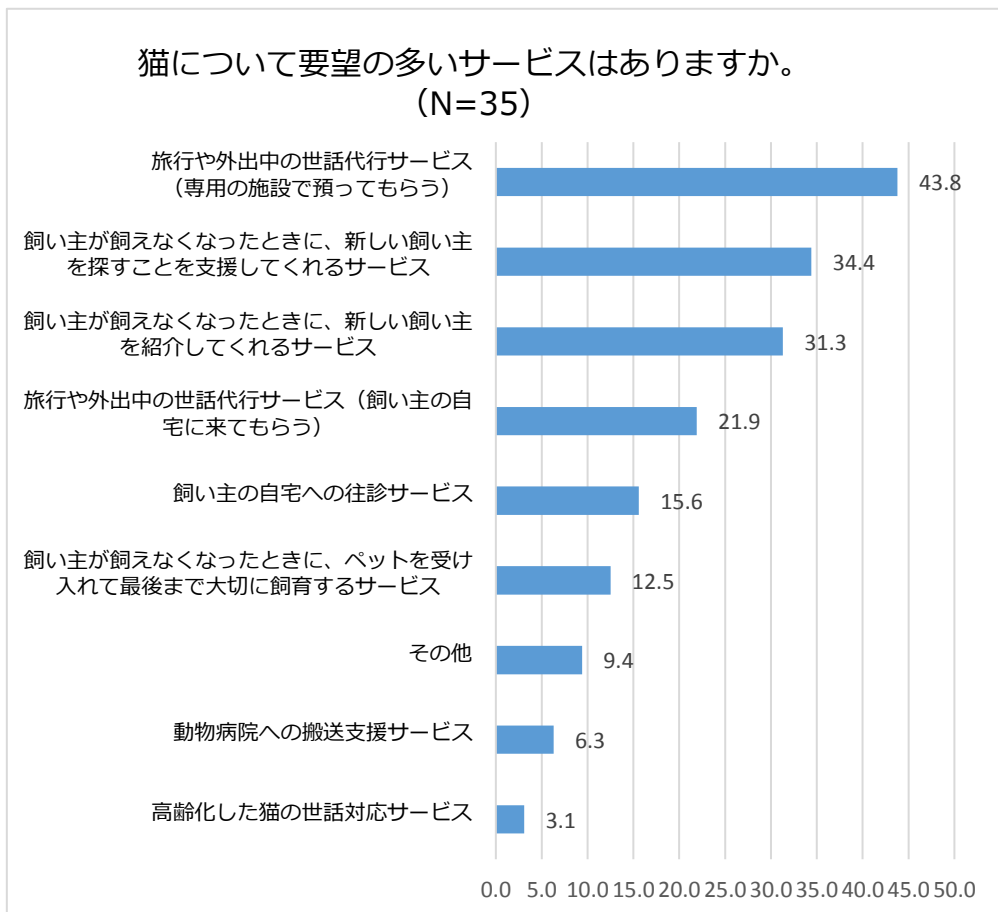
猫の相談を受けたことがあると答えたかにお聞きします。
 猫の飼育について相談を受けたことがあるのは
 次のうちどれですか。(N=36)



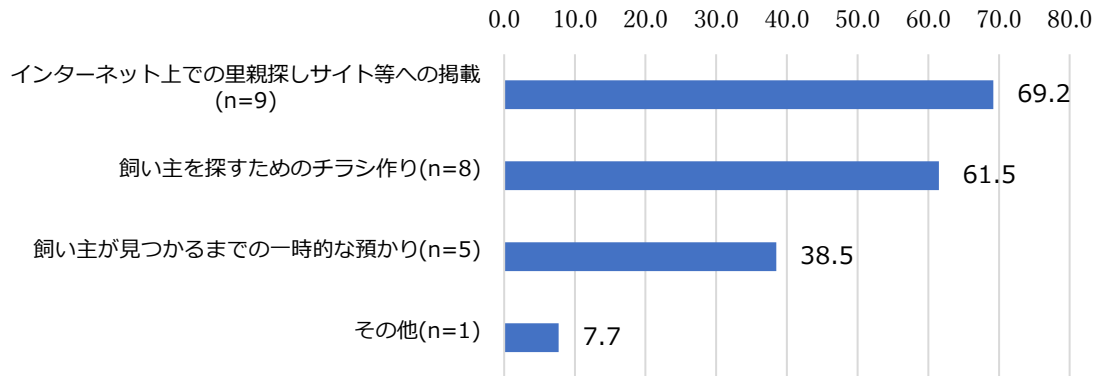
猫について既に提供している
サービスはありますか。 (N=35)



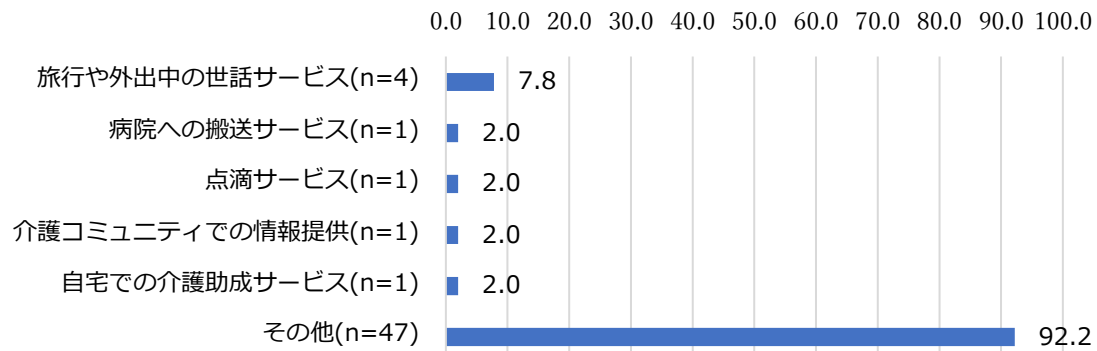
猫について要望の多いサービスはありますか。
(N=35)



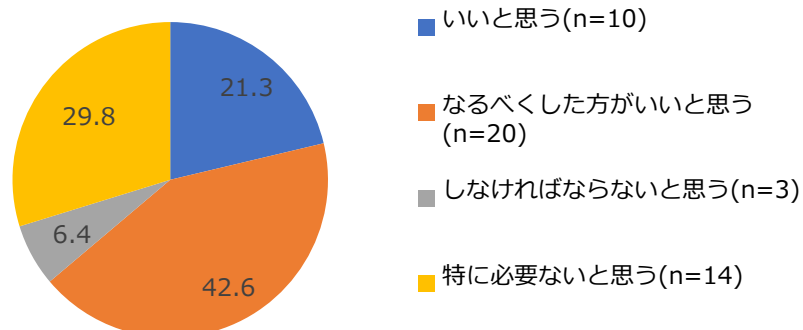
『2.飼い主が飼えなくなったときに、新しい飼い主を探すことを支援してくれるサービス』を選んだ方におうかがいします。具体的にはどのようなサービスを紹介したいですか。
(N=13)



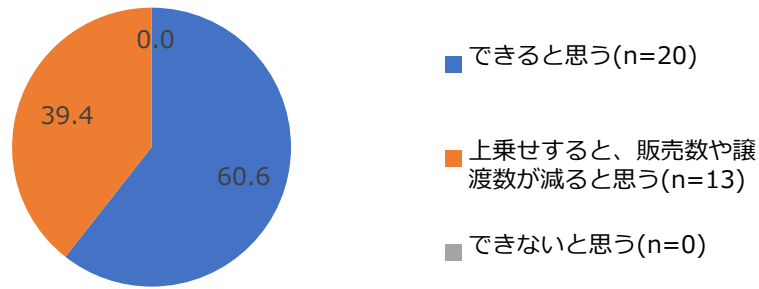
『6.高齢化した猫の世話対応サービス』を選んだ方におうかがいします。具体的にはどのようなサービスを紹介したいですか。(N=4)



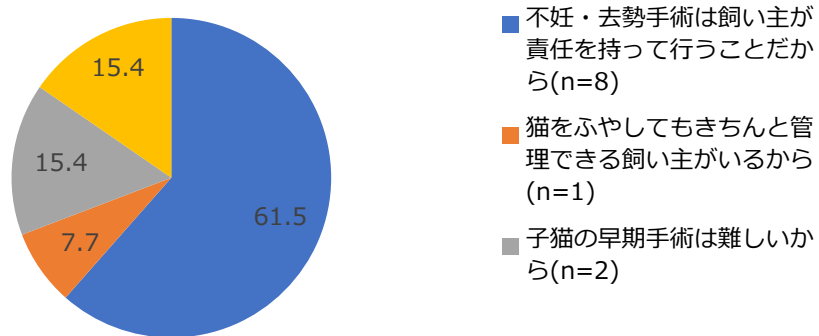
不妊・去勢手術済みの猫を販売、譲渡したほうが良いと思いますか。(N=47)



不妊化手術済みの猫の販売や譲渡を選んだ方にお伺い
します。不妊・去勢手術費用は価格あるいは譲渡費用
に上乗せ請求できると思いますか。(N=33)

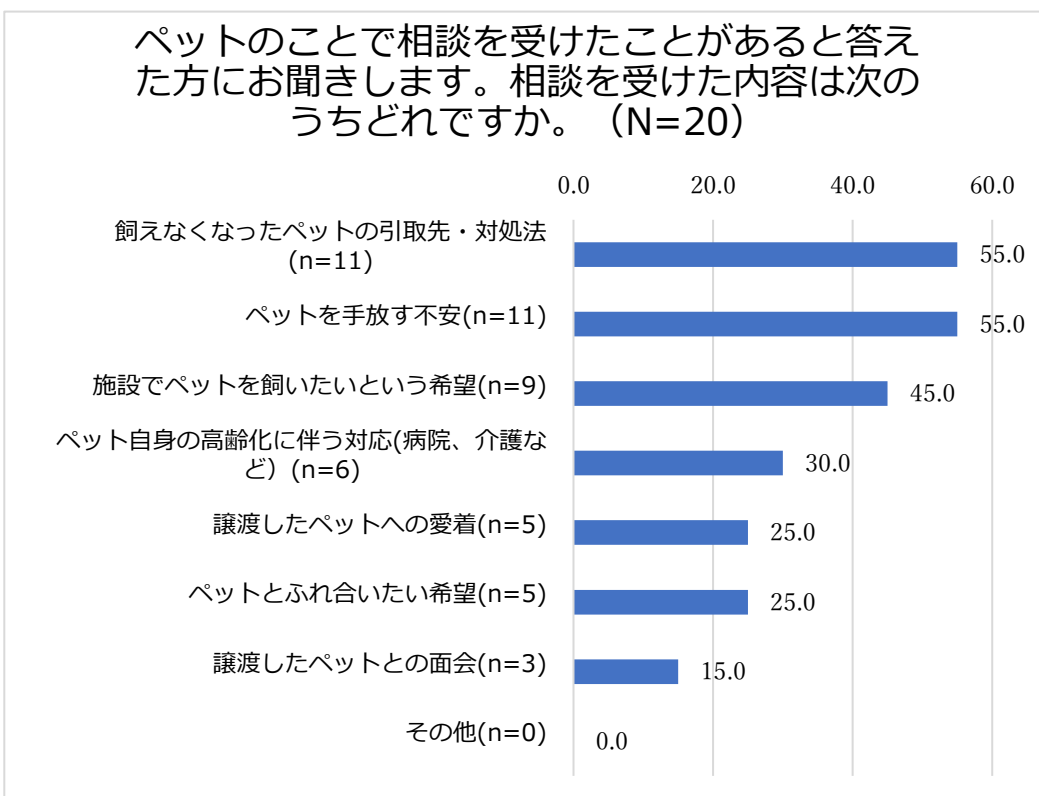
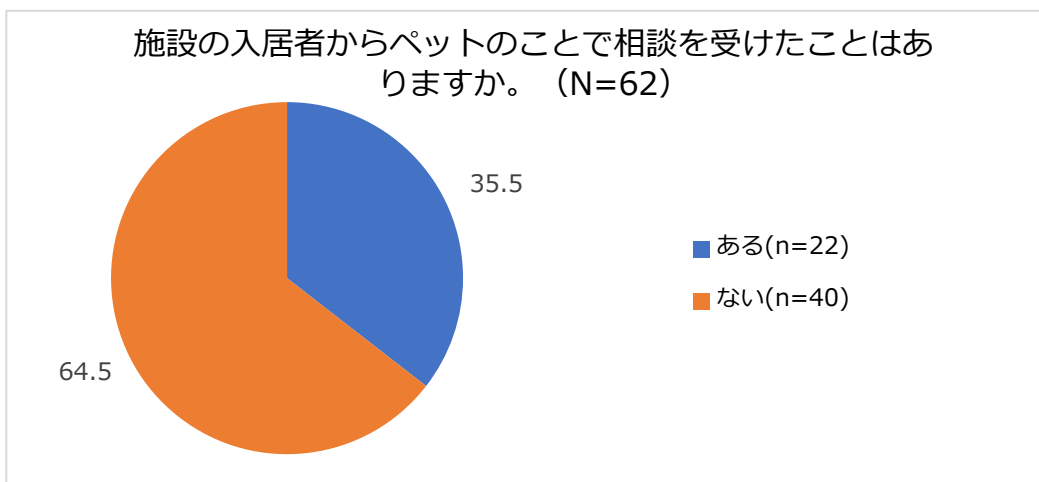
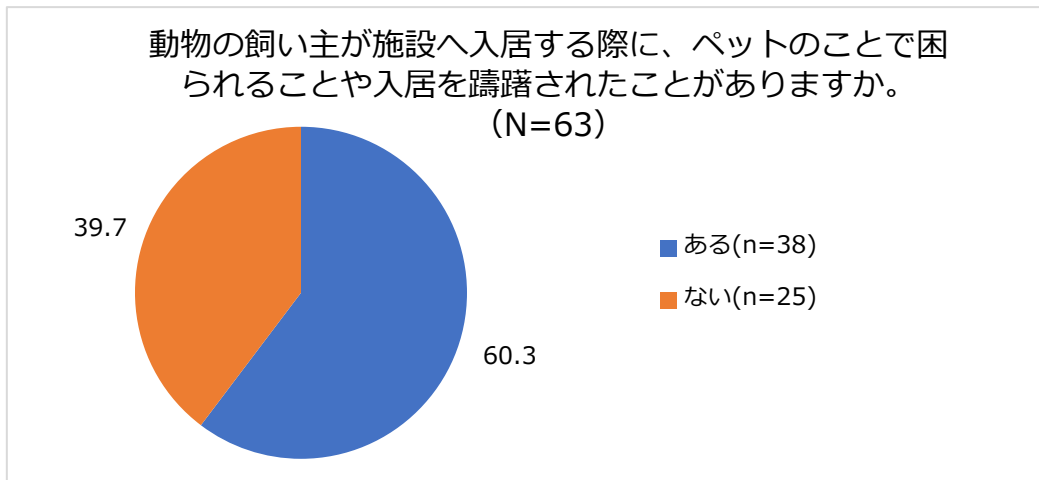


『4.特に必要ないと思う』を選んだ方にお伺いしま
す。必要ないと思った理由はなんですか。(N=13)

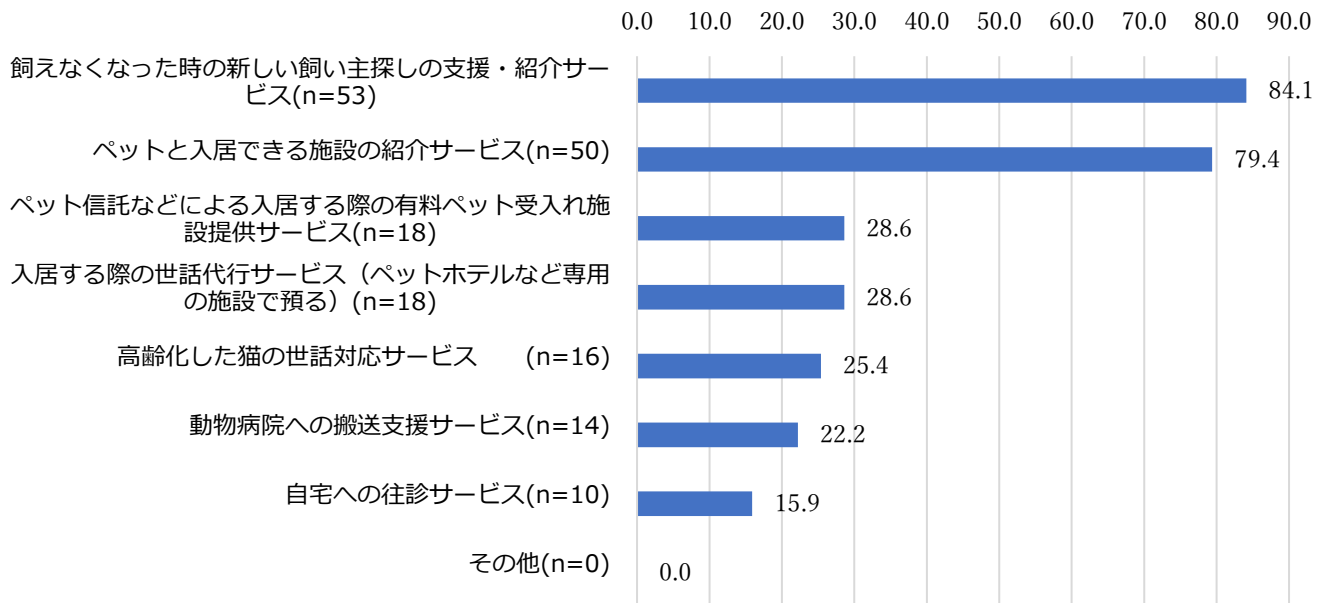


ネコに関する調査（単集計）福祉関係

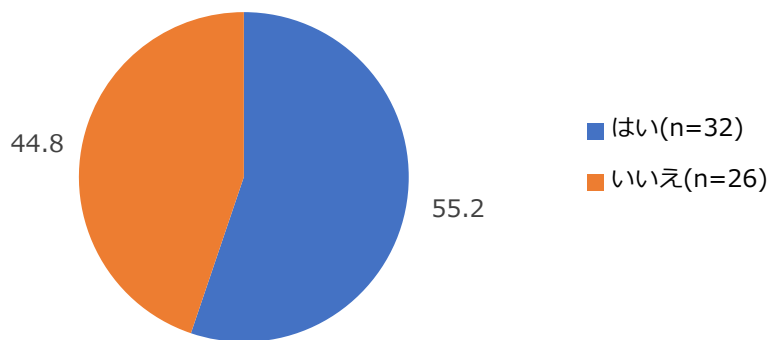
2018/8/24 作成



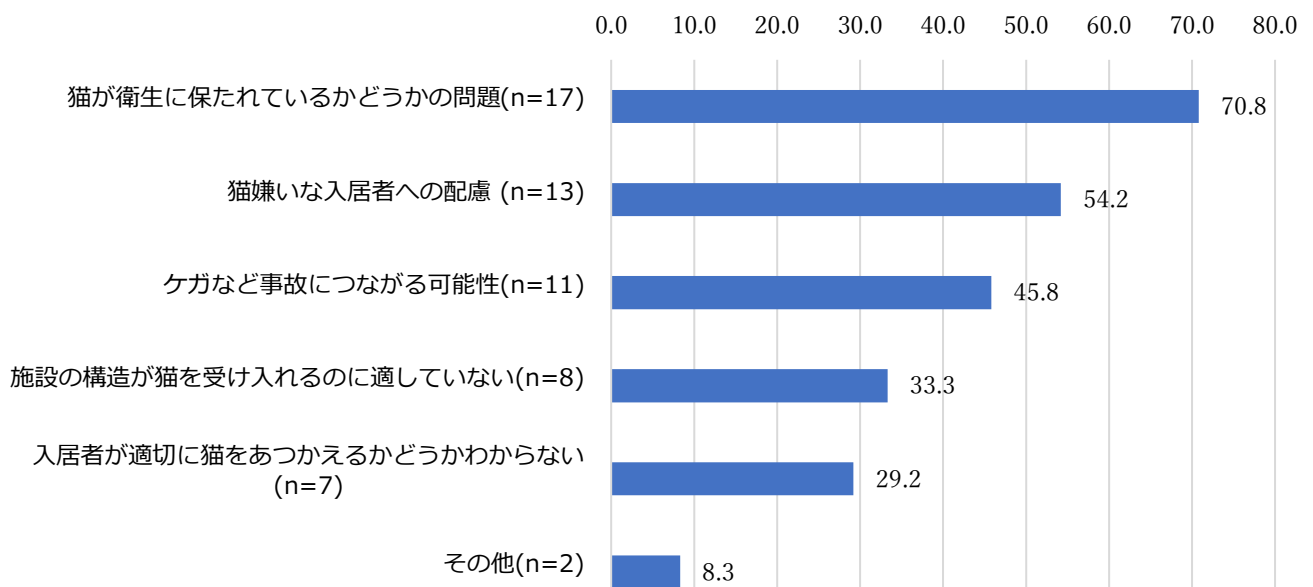
ペットを飼っていた方が安心して入居するために以下のようなサービスを
考えています。紹介したいと思われるものはどれですか。(N=63)



施設に猫を連れて行って交流いただくなどの施設向けサービスを考えています。そのようなサービスがあれば手配したいですか。(N=58)



施設での動物交流サービスを利用したくないを選んだ方におうかがいします。手配したくない理由は次のどれですか。(N=24)



この調査事業は、
公益財団法人トヨタ財団 2017 年度国内助成プログラム「しらべる助成」
の助成金を受けて行った事業です。



作成者 NPO法人
岡山  とかし隊